今春闘をいかに闘い抜くか

本夕の討論集会へ

本日、午後七時から市民館で　釜日労による春闘準備討論集会が開らかれます。

今年も一月はやはや過ぎ、暖冬であろうとの長期予報は見事にはずれ厳しい寒さは二月に入っても続きそうです。その一方仕事の出具合は今ひとつ。

昨年の春闘では早朝のセンターでの大衆的な業者追求の盛り上りによって最低単価を七千円から七千五百円へと五百円引き上げることができました。さらに一昨年（一九八三年）の春闘でも同じような戦いによって五百円の単価引き上げが勝ち取られています。

今年の春闘はこのような闘いの歴史・伝統の上に展開されるわけです。言うまでもなく春闘での確実な勝利は釜ヶ崎のすべての労働者の団結によってのみ保障されます。そのためには現状を適格に把握しそれを皆で共有しなければなりません。

最低単価が七千五百円になったといっても、さまざまな理由をつけて業者は単価を引き下げようとしています。また、ドヤ代の値上げや「健保改悪」による医療費の一割負担等、釜ヶ崎での生活はますます苦しくなっており、個人的なヤリクリでこの生活難を乗り切ることはできません。

"団結が勝利を作りだす"

一人ひとりの小さな力では果せなかったことが団結によって可能になることは春闘だけでなく、昨年夏の新一級印紙の適用や日雇見なし適用の闘いによっても明らかです。

団結をより強化し闘いを有利、そして優勢に展開するためには徹底した討論が必要です。

・今年も今までと同じ闘い方でいいのか。

・今、現場での条件はどうなっているのか、単価飯代、交通費、印紙代……現金はて、飯場はて。

・そして何を具体的に獲得すべきなのか。

等々……

夜間学校ことしの課題

1 ピンハネの追求

2 新今宮小中跡地の労働者への解放

――前回夜間学校報告――

正月をどうすごしたか、また越冬斗争についての感想などをまず、参加者に聞いてみました。

――正月はカネがなくて困った。越冬斗争については、この寒いのによくやるなと感心した。

――久しぶりにたき火のにおいがしみついて越冬だなという気がした。人民パトロールなんかに参加することで労働者らしさを発揮することになるのでは。どんなに苦しくても、それに参加することで、自分が労働者だということを自分自身に納得させてゆくことができるようになるのではないか。

――越冬には参加しなかった。人のやっかいにはなりたくないという思いがつよい。

次に、夜間学校の立場やことし夜間学校で何をやるか、について次のような意見がでました。

――立場といっても、何を目標にするかが大切ではないか。夜間学校にはいろんな人が参加している。釜の労働者もいれば、そうでない人もいる。しかし、釜ケ崎の夜間学校というからには釜のいろんな問題を扱うわけだから、釜の労働者であるか、そうでないかはあまり関係ないと思う。だからといって、だれでも参加していいということにはならない。たとえば、シノギがきたらやはりこまる。わたしはこういう事情でシノギになりましたというこを話してくれたらいいかもしれないが。

――釜にはいろんな問題がある。しかし、それらの問題はけっして並列したものではない。それらは、おのづから、釜の労働者にとって重要なものから、あまり重要でないものまでランクづけられるだろう。では、釜の労働者にとって何が最も核心的な問題かというと、それはピンハネだろう。どんな業者がどれくらいピンハネしているかをくわしく調べる必要がある。病気、アオカンの問題にしたって、その根本にはピンハネがある。一日飯場にいて、一万五千円にしかならなかったら、だれでもいやになるのではないか。ところが、釜ケ崎という地域をみただけでは、病気やアオカンの根本にピンハネがあるということはわからない。

――新今宮小中学校の跡地にしたって、こどもと大人が平等につかえるようにということはまちがいだ。「平等」といったところで、最後には、労働者は使えなくなるようにされるにきまっているからだ。あくまでも、釜の主人公は、労働者なんだという立場にたって、考えていかなくてはいけないだろう。